

「今こそ、新聞を毎日読む習慣を身に着けよう」  
—学校休校のこの時期に行うべきことを考える—

開倫塾

塾長 林明夫

Q 1 : 今こそ、新聞を毎日読んだほうがよいのですか。

A : (1) その通りです。新聞は、毎日読んだほうがよいと「確信」します。

(2) 今回の新型コロナウイルスによる感染症の拡大についても、スマホや TV による報道にプラスして新聞を毎日読むことにより、かなり正確に現状を把握し、対策を考えることができます。

(3) もし、中国に言論の自由、新聞を含めた報道の自由が、日本をはじめ欧米諸国のように保障されていたら、ここまでの感染拡大はなかったと考えるのは、私だけではないと考えます。

Q 2 : では、お聞きします。新聞とは何ですか。報道の自由とは何ですか。

A : (1) 新聞は、「社会の番犬(Watch Dog)」です。社会の中でおかしなことがあったら、「社会の番犬」としてワンワンと大きな声で吠え、「ここがおかしいよ」とみんなに知らせるのが新聞の仕事、社会的使命(ミッション)と私は考えます。

(2) 中国の1人の医師が新型肺炎の危険性を指摘し、その医師が処罰されそうになったら、中国中、いや世界中の新聞が総力を挙げて取材して「それはおかしいよ」と報道し、どんなに力を持った政府であっても、世の中を正しい方向にもっていくよう批判をしなければなりません。

(3) この「ちょっとおかしいのではないか」という「批判的精神」をもつこと、社会に対して「警鐘」を鳴らすことこそ、新聞の真骨頂、新聞の本来の役割と考えます。

Q 3 : 小学生、中学生、高校生も新聞を毎日読んだほうがよいのですか。また、新聞を読んでよくわかるのですか。

A : (1) 私の場合、小学校4年生になったときに、クラス担任の岡典子先生から「皆さん、4年生になったので、新聞を毎日読みましょう」といわれて以来、新聞を毎日読んでいます。

(2) 小学校4年生のときには、新聞に書いてあることのほとんどはよくわかりませんでした。TV欄やスポーツ欄、天気予報、近くの街の記事などは、小学校4年生でもわかるものが多かったと記憶しています。

(3) 一番よくわかったのは、スポーツを含めた報道写真と連載マンガ、それに投書欄でした。

少しずつ慣れてくると、新聞の一面の下のほうにある「コラム」に面白いことが書いてあることに気づき、毎日読むようになりました。

- (4)このように、新聞は小学校 4 年生でも十分にわかります。今の小学生は皆、何十年か前の私よりもはるかに優秀でしょうから、是非、小学校 1 ～ 2 年生もわかるところだけでも OK です。新聞を毎日読んでください。

〈保護者の皆様へのお願い〉

- (1)家で購読している新聞で、御家族の皆様が読み終えて不要になった昨日の新聞を、お子様の勉強用に毎日プレゼントしてあげてください。素晴らしい教材となりますので、御協力ください。
- (2)御家庭で新聞を購読なさっていない場合は、よくお話し合いになって購読して頂くのが一番ですが、勤務先や知り合いから不要になった新聞を頂いてきて、お子様にプレゼントすることも是非お考えください。
- (3)週に 1 ～ 2 回コンビニで新聞を買い求め、御家族が読み終えて不要になった新聞をお子様に教材用としてプレゼントすることも有り難く思います。
- (4)学校図書館や公共図書館が使用できるようになったら、週に何回か出掛けて新聞を読むように、御家庭でも御指導ください。

**Q 4 : 新聞を読んだあとは、どうすればよいのですか。**

- A : (1)一番のおすすめは、興味のある記事や気になる記事を「カッターやハサミ」で切り取り、「スクラップブック」、つまり、使いかけの「ノート」や「台紙」(広告のウラでも OK)に「のり」で貼り付けて保存することです。
- (2)保存した記事を何回も何十回も読み返すことです。
- (3)記事を読み、考えたことや感じたことを書き添えてもよいと思います。
- (4)切り取った新聞をまとめて、空箱などに入れておき、あとでまとめて読むことも、「超おすすめ」です。「スクラップブック」がすべてではありません。大切なのは、気になる「記事」を切り取って保存し、何回も読み直し、自分の頭で考えることです。
- (5)図書館などの新聞はみんなのもの、「公共物」なので、絶対に切り取ってははいけません。お金があったらコピーする、なければノートかカードに書き写すことです。

**Q 5 : この時期、新聞を毎日読んで身に着くものは何ですか。**

- A : (1)「これはちょっとおかしいのではないか」ということを新聞の目を通して知ること、「自分で考える力」「批判的思考(クリティカル・シンキング)能力」が身に着きます。  
\*そのためには、1 つの新聞を一生読み続けるのではなく、たまにはいくつかの新聞を図書館などで読み、「読み比べること」が大切です。毎日読んでいる新聞社の見方の他に、ちょっと違った見方をする新聞社もあることを知りながら、1 つのお気に入りの新聞を読むことが大切です。
- (2)地域や日本、世界で何が起きているのかの知識を得ることができます。

- ①世の中の動きを最も正確に伝えるのが新聞だからです。
  - ②政治・経済・国際関係・ビジネス・教育・文化・福祉・健康・旅行・趣味・映画・TV・読書などありとあらゆる分野の情報を、新聞で知ることができます。
  - ③囲碁や将棋、数独、クロスワードパズルまであります。
- (3)新聞を毎日読むことで、新しい文章を正確に、又、分析的に読み解く力、つまり「読解力」を身に着けることができます。
- ①開倫塾のテキストや学校の教科書、教材、定期試験、模擬試験、入学試験等で、皆さんは毎日のように新しい文章に出会っています。
  - ②その新しい文章に出会ったときに一番大切なのは、それらを正確に、又、分析的に、又、一定時間内に読み解く力、つまり「読解力」です。
  - ③新聞を毎日 30 分以上読み込むことが学習習慣となっている人は、一定時間の中で新しい文章を正確・分析的に読む「読解力」が身に着いていますから、学校の成績はよく、試験、特にトップ校や難関校の入学試験にも強いこと当然です。
  - ④特に問題文と設問を合計した文章の量が多い最近の「中高一貫校入試」「私立中入試」「私立高入試」「公立高入試」「大学センター入試」「大学独自入試」で、短い試験時間内に大量の文章を十分に読み終えることができず、入試に失敗する例が見られます。入試対策としても、新聞を毎日 30 分以上読むことは欠かせないと考えます。

**Q 6 : この時期、英字新聞も読んだほうがよいのですか。**

**A :** (1)当然です。

- ①英字新聞には、中学生用、高校生用や週に 1 回発行のもので日本語の解説が入ったものがありますので、まずはそこからスタートするのも一手です。
  - ②英検 2 級に早めに合格したら、毎日発行される英字新聞を毎日 1 時間以上かけて熟読することをおすすめします。
- (2)英字新聞でおすすめの第 1 は、読売新聞の英語版「Japan News」です。
- ①まず、日本語の読売新聞を毎日 30 分以上よく読むこと。
  - ②次に、よくわかる内容のところだけで OK ですから、「Japan News」を毎日 1 時間くらい、辞書を引かずによく読むことです。
  - \*できれば、英字新聞は小さな声を出しながら「ボソボソ」と読みましょう。
  - ③最後に、その日に一番気になる記事をカッターで切り抜き、又は、コピーをしてノートにのりで貼り付け、よくわからない語句は辞書を用いて一行一行丁寧に「精読」しましょう。
- (3)英字新聞でおすすめの第 2 は、「The Japan Times」です。
- ① 1 時間～ 2 時間かけて辞書なしですべて読む。
  - ②気になる記事は 1 つか 2 つカッターで切り取り、又は、コピーをしてノートにのりで貼り付け、辞書で調べながら精読する。
- (4)英字新聞でおすすめの第 3 は、「The Japan Times」の中に入っている「The New York Times」です。
- ①これは 2 ～ 3 時間かけて毎日読む。

②気になる記事はカッターで切り取るかコピーをしてノートにのりで貼り付け、辞書を用いて徹底的に精読することをおすすめします。

(5)「Japan News」→「The Japan Times」→「The New York Times」と進めば進むほど、1つの記事の長さが長くなり、記事も調査・報道とって本格的なものが多くなりますので、読み応(ごた)えがあります。トップ校や難関校の入試対策としては、この3つの英字新聞だけで十分と考えます。

\*以上は、学校休校後、3月9日の開倫塾塾生と保護者への〈塾長メッセージ〉です。

#### Q7：最後に一言どうぞ。

A：今月も、先生方がお読みになれば必ずお役に立つ本を御紹介いたします。

(1)1冊目は、パラグ・カンナ著「アジアの世紀、接続性の未来」原書房 2019年11月15日刊です。「The Future is ASIAN, Global Order in the 21 century」が原書です。先月御紹介した、ケント・E・カルダー著「スーパー大陸、ユーラシア統合の地政学」潮出版社 2019年11月5日刊とともに読めば、日本とは何か、日本の立ち位置、自らの学習塾の行うべき教育を考え直すことができます。

(2)2冊目は、庵(いおり)功雄著「やさしい日本語、多文化共生社会へ」岩波新書、岩波書店 2016年8月19日刊です。どう表現すれば、日本語を用いるすべての人々にやさしい日本語になるか、ものごとを原点から考えるのに参考になります。

(3)3冊目は、神長善次著「欧州の知恵、世界に生きる新しい日本の対応」講談社 1992年4月20日刊です。特に、スイスの主権国家としての生き方は参考になります。

(4)4冊目は、李栄薫編著「反日種族主義、日韓危機の根源」文藝春秋 2019年11月15日刊です。自分で考える力、批判的思考能力の重要性を再認識する本です。

(5)5冊目は、小西甚一編訳「風姿花伝・花鏡(かきょう)」タチバナ教養文庫、たちばな出版 2012年3月1日刊です。カバンの中にしのばせ、折に触れて読むのに最適です。

大変な時期ですが、大いにがんばりましょう。